

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径 No.153
2021 July
7月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生

今月のことば

いちじゅう いっさい
一汁一菜

「汁」は「しるもの」、
「菜」はおかずのこと。
副食として一品の汁物
と一品のおかずだけの
質素な食事のことです。
慎ましい生活のたとえ
です。

なぜ〇〇科を学ばせるのか

- 子どもたちに「なぜ〇〇科を学ぶのか」と、その教科を学ぶ意味を伝えることで、より強い目的意識をもって学習に取り組むようになります。
- 授業に当たっては、身につける学習内容や取り上げられる題材や教材が、子どもたちにとってどのような意義や意味があるのかを明確にします。

今月の たわしの日
記念日 (7月2日)

清掃用品を製造している会社(亀の子束子西尾商店)が制定しました。
「亀の子束子」の特許を取得したのが、大正4年(1915年)のこの日です。

子どもの素朴な疑問

もし子どもたちから「なぜ学校で勉強をするのですか」と質問されたら、どう答えたらよいのでしょうか。例えば「将来、立派な大人になって社会で活躍できるようになるためです」「いろんなことを知ったり、上手にできるようになったりすることで、一人前の大人に成長していくのです」などと答えることが考えられます。しかし、これで子どもたちは納得するのでしょうか。

このことを教科のレベルに落として考えます。例えば「なぜ社会科を学ぶのか」という質問には、次のように答えることができます。

「みなさんはすべて将来社会人になります。社会のなかでよりよく生きていくためには社会のいろんなことについて理解していなければなりません。社会のことを知り、社会の課題を解決していくことのできる人間に成長するために社会科を学ぶのです。」

では、国語科や算数科を子どもに学ばせるのはなぜでしょうか。かつて私設の教育機関だった寺子屋では「読み・書き・算盤」が重視されました。これになぞらえると「新聞が読めて、手紙が書けて、買い物ができる」(柳田国男の言葉)ようにするためだと

説明することができます。これでいまの子どもは納得するのでしょうか。

子どもたちは、漢字を忘れてたり読み方が分からなかったりしたときには、電子辞書やパソコンで調べることができますと言います。算数科で分数同士の掛け算や割り算を教える場面では、日ごろの生活のなかで使わない計算の仕方をどうして勉強するのかと、子どもたちは素朴な疑問をもちます。

校内で、すべての教科等を対象に、「なぜ、〇〇科を子どもに学ばせるのか」について話題にしてはどうでしょうか。そのことを子どもたちに分かりやすく説明し、子どもたちが納得すると、学習に取り組む姿勢が変わっていくのではないのでしょうか。

授業づくりの新しい視点

各教科等の学習指導に当たって、授業者は次の4つのことを考えます。

まず、この教科であるいはこの単元や題材で何を目標として指導するのかということです。これは「目標」です。目標のない教育活動はありません。

次に、目標を実現させるために、何を指導するのかを明らかにします。これは「内容」です。多くは習得させる知識や技能のことです。そして、これらの内容をいかに身につけさせるのか

を工夫します。具体的には、教材や資料、学習活動、発問や指示などさまざまな手だてを考えます。これらは指導の「方法」と言われます。

そのうえで、予め設定した目標や内容が子どもたちにどのように実現しているか。実現状況の見きわめ方を考えます。これは「評価」です。評価の営みは指導と一体の関係にあります。

これらの4つの内容は学習指導案に記述されますから、授業者は意図的に指導するようになります。

さらに加えて吟味・検討したいことは、「何のためなのか」ということです。これは指導の「目的」で、「目標」の上位に位置づきます。これまでの授業づくりでは、この部分が必ずしも明らかになっていなかったように思われます。

子どもたちの成長や発達にとって、本単元や題材を学ぶことにどのような意義や意味があるのか。このことを学び手である子どもの立場から明らかにすることが授業づくりの新しい視点です。これは従来の「教材観」の内容に当たるものです。単元や題材の設定に当たっての理由や根拠にもなります。

指導に当たっては、各教科等の役割や学ぶ目的を検討し、教師間で共有するとともに、子どもたちや保護者にも分かりやすく伝えるようにします。

学級経営の基礎

規律ある集団に

学級や学年、学校は多様な子どもたちが集団で生活する場です。集団とは相互関係を継続的に維持する個体の集まったものです。単に一か所に集まっているだけの群れとは違います。

多様な個が集合し、集団として維持していくためには、一定の規律や秩序が必要です。国家という集団には法律というルールがあります。定められたきまり(約束ごと)を国民のみんなが遵守することにより、社会の秩序や治安が維持されます。学級を規律ある集団にするためにもルールが必要です。各学校には「〇〇小学校のきまり」といった学校生活の仕方を定めたものがあります。教師が学校としてのきまりを示していることが多いようです。

子どもたちにきまりが定められていることの意味を理解させ、内容によっては、発達段階を考慮して子どもたちに決めさせることもできます。このことによって、きまりを遵守する精神や態度を一層高めることができます。

規律ある集団は学習場面でも求められます。発言の仕方や聞き方、話し合いの進め方、机の配置など学習上のきまりを定めている学級があります。学習の規律が確立することで、授業をより効果的に進めることができます。

学校生活の規律は、生活を制約したり規制したりします。あまり細かなものを定めると、見た目には統制が取れているように見えても、子どもたちの個性が乏しくなり、豊かな発想が生かされなくなることがあります。どのようなことを、どの程度のきまり(ルール)にするか。そのきまりをどのように決めるかなど、学校として方針を明確にしておくといでしょう。

教育の動向

GIGAスクール構想

文部科学省の資料によると、GIGAスクール構想について、「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」と定義されています。

これは各学校に高速で大容量の通信ネットワークを整備することで、子どもたちが1人1台の端末を用いて個別最適な学びを展開することができるようにすることを目指しています。

平成30(2018)年度から実施された、教育のICT化に向けた「環境整備5か年計画」によると、令和4(2022)年度までに、学習者用コンピュータを3クラスに1クラス分程度、指導者用コンピュータを授業を担当する教師1人1台、それぞれ整備するという目標を掲げていました。

GIGAスクール構想はこれを前倒しして、令和2年度中の完了を目指してきました。背景には新型コロナウイルスの感染拡大で昨年度学校の臨時休業が長期化し、教育課程の実施に支障が生じたことから、遠隔授業などICT環境の早期整備が課題になったことが上げられます。本事業は「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の一環として打ち出されました。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと 21

「筍会」のスタート

昭和60年(1985年)4月、目黒区教育委員会に異動しました。夏休みのある日、区内の社会科に関心のある先生方が、ある小学校の会議室に集まりました。その場で「社会科専門の指導主事が異動してきたのだから、社会科の授業について勉強する機会をつくりたい。ぜひ指導してほしい」と要請されたのです。私は即答し、2学期からスタートすることにしました。

会の名称は「筍会」です。目黒は古くから竹林が多く、筍の産地として知られていたからです。一皮向いて、真っ直ぐに成長しようという願いもありました。「来るものは拒まず、去る者は追わず」を原則に、希望する人はだれでも参加できるようにしました。

筍会のモットーは「実践で授業を語

る」です。協議の内容は社会科の学習指導案をもとに教材や指導法について検討したり、授業記録を持ち寄って授業分析したりするなど、基本は実践に即したものでした。提案内容に対する意見や指摘は校内での研修と違い、厳しいものでした。ほめることはほとんどなかったように記憶しています。

筍会は、月に1回、夕方6時30分ごろから9時近くまで行われました。会場の建物の閉館時刻が9時だったからです。そのあと、近くの居酒屋で一杯やるのが恒例になっていました。

筍会のメンバーは校内のリーダーとして育ち、校内研修の教科に社会科を取り上げました。区内に小学校が22校ありましたが、そのうち5校が社会科の授業研究に取り組みました。

こうしてスタートした筍会は、36年が経った現在も開催されています。

INFORMATION

大好評! 保護者と語りたい 子育てで話材50



A5判 112ページ

北 俊夫先生の著書

「なぜ」で読み解く社会科授業のヒント



A5判 96ページ

授業力向上の地方発「もの見方・考え方」とは何か



A5判 96ページ

だれでもできる社会科学習問題づくりのマネジメント



A5判 104ページ

こんなことをする! 学級担任の危機対応マニュアル



A5判 96ページ

なぜ子どもに社会科を学ばせるのか



A5判 104ページ

編集後記

「オリンピック・パラリンピック教育」の一環として東京2020教育プログラム「よいうい、ドン!」がHPで公開されています。この教育プログラムを通じて、世界中の様々な事柄に触れられることはとても貴重な体験だと感じました。(F記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2021年7月1日